

科目名 【英】	経営マネジメント Office Manegement			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	3. 4

担当教員	上田 育功 内藤 睦	実務者経験	(上田) 2014年5月～ 経営コンサルティング事務所所属 中小企業診断士として、経営コンサルティング業を営む
------	---------------	-------	--

学習内容	経営学の基礎と開業に際して必要な知識を学ぶ。 「キャリアプランニング」「起業」「リスクマネジメント」について学ぶ。
到達目標	社会に出てからの経営の手法を学び、将来独立、整骨院等の経営をするときの基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	次回内容関連する資料を読む、課題に取り組むなどの予習・復習が必要。
使用教材	各科目に合わせたレジュメを使用する。
留意点 備 考	本講義は、グループワークを交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	復習テスト50%＋最終日のグループ発表50%で評価する。
------	------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	経営学 1	・将来を想像し、自分らしい仕事について考える。 ・自分の棚卸しをし、キャリアプランを立てる。	
2	経営学 2	・経営を学ぶということの意味について ・成功店舗と失敗店舗の違いについて	
3	経営学 3	・簡易テスト：失敗事例について、改善可能性の検討 ・店舗管理の基礎知識	
4	経営学 4	・簡易テスト：スーパーの商品配置（何をどこに置くのが効率的か） ・消費者の購買プロセスについて	
5	経営学 5	・簡易テスト：購買プロセスの復習テスト ・独立、開業する際に必要な知識	
6	経営学 6	・簡易テスト：開業に必要な知識についての復習テスト ・利益をあげるということ（収益計算と人材雇用について）	
7	経営学 7	・事業計画のグループでの作成 ・事業計画のプレゼン	
8	社会保障 1	社会保険制度について説明ができる。	
9	社会保障 2	社会保険制度について説明ができる。	
10	社会保障 3	社会保険制度について説明ができる。	
11	社会保障 4	療養費支給申請について説明ができる。	
12	社会保障 5	療養費支給申請について説明ができる。	
13	社会保障 6	療養費支給申請について説明ができる。	

14		社会保障 7	療養費支給申請について説明ができる。
15		試験	終講時試験
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学 Hygiene and Public Health			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	3.4

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	環境保健、地域の公衆衛生学を学ぶ。 衛生学、公衆衛生学の分野について、総合的な知識を身に付け、理解を深める。
到達目標	医療従事者として必要な衛生学、公衆衛生学の知識を習得し、臨床においてもその知識を活用できるようにする。

準備学習 時間外学習	衛生学・公衆衛生学の教科書を通読し、知識を整理しておく。
使用教材	教科書「衛生学・公衆衛生学（改訂第6版）」南江堂
留意点 備 考	該当範囲の部分を教科書を用いてしっかりと予習、復習を行うこと。

成績評価	最終講義時に筆記試験を行い、筆記試験100%にて評価を行う。
------	--------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	健康、人口統計、 予防	健康、人口統計【WHO憲章前文、国勢調査、人口ピラミッド】 WHO憲章前文に記載されている健康の定義、各種人口統計が説明できる	
2	感染症	感染症【微生物、感染経路、感染予防対策】 感染症の概要を理解し、その予防対策について説明できる	
3	消毒	消毒【理学的消毒法、化学消毒法、院内感染対策】 感染症の予防対策を理解し、院内感染対策を実践できる	
4	環境①	地球環境【公害、環境問題、環境温度】 人類が抱える各種環境問題を中心に、地球環境について考察する	
5	環境②	生活環境【上水、下水、衣服、住居、食生活】 上下水道、食中毒を中心に生活環境を考察する	
6	母子保健	母子保健【母子保健統計、小児保健】 各種統計を眺めながら、日本における母子保健行政の現況を考察する	
7	学校保健	学校保健【学校保健】 学校保健についての概要を理解し、現代の児童生徒の抱える健康問題を考察する	
8	成人保健	成人保健【生活習慣病、高齢者保健】 生活習慣病とその対策について考察する。また高齢者保健についても理解を深める。	
9	産業保健	産業保健【職業病、検診】 職業病について理解を深める。産業医の役割について説明できるようになる。	
10	地域保健	地域保健【地域と医療】 1次医療、2次医療、3次医療を学び、現代日本の地域と医療の関係について考察する	
11	国際保健、 精神保健	国際保健【WHO】、精神保健【精神疾患】 WHOの役割、プライマリーヘルスケア、主要な精神疾患について説明できる	
12	保健行政	保健行政【病院と診療所、保健所、医療保険制度】 我が国の医療保険制度、保健所の役割が説明できる	
13	医療の倫理と安全	医療の倫理と安全【医療事故、インフォームド・コンセント】 医療事故、インフォームドコンセントについて説明できる	

14		疫学	疫学【標本調査、分析疫学】 疫学の効用、留意点について説明できる
15		まとめ、試験	全範囲を復習し試験を実施する
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2009年4月～2013年3月 附属整骨院勤務 2013年6月～現在 整骨院開業
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の歴史、考え方を通して礼節作法を学ぶ。
到達目標	柔道の歴史、理念、服装、態度、礼法、受身について理解し説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	出席評価100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道について 1	創始者、創始年、発祥地、柔道を表す言葉を理解する。
2		柔道について 2	遺訓、理念を理解する。
3		柔道について 3	修行、形を理解する。
4		柔道について 4	投げの形を理解し、説明できるようになる。
5		柔道について 5	技の名称の種類について覚える。
6		礼法について 1	趣旨、敬礼、拝礼について理解する。
7		礼法について 2	受身の意義、種類、注意点を理解し説明できるようになる。
8		国際柔道審判規定	一本の定義、反則について認識する。 立礼、坐礼について説明出来るようになる。
9			
10			
11			
12			
13			

14			
15			
16			
			提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔道 4 Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3. 4

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（足技）を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 形（足技）が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1. 2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身を取り外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		形（腰技） 1	礼法、受身、浮腰を行うことができる。
2		形（腰技） 2	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。
3		形（腰技） 3	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。
4		形（腰技） 4	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。
5		形（腰技） 5	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。
6		形（腰技） 6	腰技を左投、右投を行うことができる。
7		形（足技） 1	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。
8		形（足技） 2	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。
9		形（足技） 3	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。
10		形（足技） 4	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。
11		形（足技） 5	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。
12		形（足技） 6	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。
13		形（足技） 7	足技を左投、右投を行うことができる。

14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整外傷学実習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	西尾 仁孝	実務者経験	平成3年4月から鍼灸整骨院を開業し、平成16年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	---

学習内容	各種固定法の習得により肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、鎖骨骨折、肘関節脱臼、コーレス骨折、肋骨骨折、上腕骨骨幹部骨折各々の固定の臨床実技力を高め予後や後遺症予防について学ぶ。
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得目指しながら患者の身になり固定の実技力を高め臨床応用を身に付ける事を旨とする。

準備学習 時間外学習	プリントによる予習、実習後の復習
使用教材	プリント
留意点 備 考	副教材として実技実習テキスト本を持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査100%にて評価する。
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/8	肩鎖関節脱臼の固定	テーピングで腕をしっかり吊り整復終了位を保持する事が出来るようになる。
2	4/15	肩関節脱臼の固定	副子の位置に注意し上腕骨頭の前方向への再転位を防止する固定が出来るようになる。
3	4/22	鎖骨骨折の固定	副子の位置に注意しリング副子を使用した固定が出来るようになる。
4	5/13	肘関節脱臼の固定	シーネを成型した後にそれを使用し包帯が浮かないように注意した固定が出来るようになる。
5	5/20	コーレス骨折の固定	副子の位置に注意する事で再転位防止と変形治癒防止を意識した固定が出来るようになる。
6	5/27	肋骨骨折の固定	晒包帯を使用し患者の呼吸に留意して体幹を固定する事が出来るようになる。
7	6/3	上腕骨骨幹部（螺旋型）骨折の固定	ミッテルドルフ副子を使用し下行麦穂帯のラインに注意した固定が出来るようになる。
8	6/10	復習	卒業実技試験合格レベルを目指しながら肩鎖関節脱臼の固定、肩関節脱臼の固定のスピードアップと固定の仕上がりを綺麗に出来るようになる。
9	6/17	復習	卒業実技試験合格レベルを目指しながら鎖骨骨折の固定、肘関節脱臼の固定のスピードアップと固定の仕上がりを綺麗に出来るようになる。
10	6/24	復習	卒業実技試験合格レベルを目指しながらコーレス骨折の固定のスピードアップと固定の仕上がりを綺麗に出来るようになる。
11	7/1	復習	卒業実技試験合格レベルを目指しながら肋骨骨折の固定のスピードアップと固定の仕上がりを綺麗に出来るようになる。
12	7/8	復習	卒業実技試験合格レベルを目指しながら上腕骨骨幹部（螺旋型）骨折の固定のスピードアップと固定の仕上がりを綺麗に出来るようになる。
13	7/22	肩・肩鎖関節脱臼 鎖骨骨折の固定	認定実技合格レベルを目指しながら各固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。

14	8/26	肘関節脱臼、コーレス骨折の固定	認定実技合格レベルを目指しながら各固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。
15	9/2	肋骨固定、上腕骨骨幹部、の固定	認定実技合格レベルを目指しながら各固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。
16	9/9	復習	認定実技合格レベルを目指しながら肘手首と手ノ指道し固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整外傷学実習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対しての臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	骨折、脱臼の発生機序、転位を理解し整復実技力を身につける。臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	12回目後に卒業実技試験を実施し、骨折整復実技試験にて100%評価する。
------	--------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/10	卒業実技試験に向けた実技の序章①	体表解剖【ランドマークとなる骨や関節、軟部組織の位置を知る】 体表からランドマークをみつけて骨格の形状を意識することができる。
2	4/24	卒業実技試験に向けた実技の序章②	触察法【触察上の注意・骨や軟部組織の触察の方法・関節モビライゼーション】 部位に応じた適切な触察法を行うことができる。
3	5/8	卒業実技試験に向けた骨折の整復①	骨折の徒手整復法【鎖骨骨折】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
4	5/15	卒業実技試験に向けた骨折の整復②	骨折の徒手整復法【上腕骨外科頸外転型骨折】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
5	5/22	卒業実技試験に向けた骨折の整復③	骨折の徒手整復法【コーレス骨折の牽引直圧法】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
6	5/29	卒業実技試験に向けた骨折の整復④	骨折の徒手整復法【コーレス骨折の屈曲整復法】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
7	6/12	卒業実技試験に向けた骨折の固定	骨折の固定法【第5中手骨頸部骨折】 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
8	6/19	卒業実技試験に向けた脱臼の固定	脱臼の固定法【第2指PIP関節背側脱臼】 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
9	6/26	卒業実技試験に向けた靱帯損傷の固定	軟部組織損傷の固定法【足関節外側靱帯損傷】 患者を意識して厚紙副子による適切な固定を行うことができる。
10	7/3	卒業実技試験に向けた実技の復習①	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。
11	7/10	卒業実技試験に向けた実技の復習②	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。
12	7/17	卒業実技試験に向けた実技の復習③	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。
13	8/28	認定実技審査に向けた骨折の整復①	骨折の徒手整復法【鎖骨骨折】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。

14	9/4	認定実技審査に 向けた骨折の整復②	骨折の徒手整復法【上腕骨外科頸外転型骨折】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
15	9/18	認定実技審査に 向けた骨折の整復③	骨折の徒手整復法【コーレス骨折の牽引直圧法】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整外傷学実習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	国家試験に対応できるべく整形外科学を中心に柔道整復理論も学習していく。
到達目標	各項目の理解と試験問題への対応力・思考力を習得する。

準備学習 時間外学習	整形外科学の復習が必要
使用教材	整形外科学・配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/10	整形外科学分野	国家試験に向けた考え方を身につける・骨端症を知る・演習
2	4/24	整形外科学分野	骨端症の特徴と違いを理解し鑑別できるようになる。・演習問題
3	5/8	整形外科学分野	先天性骨系統疾患について理解し鑑別できるようになる。・演習問題
4	5/15	整形外科学分野	全身性筋疾患について理解し鑑別できるようになる。・演習問題
5	5/22	整形外科学分野	骨腫瘍について理解し鑑別できるようになる。・演習問題
6	5/29	整形外科学分野	非感染性骨関節疾患について理解し鑑別できるようになる。・演習問題
7	6/12	整形外科学分野	上肢の外傷について理解し鑑別できるようになる。・演習問題
8	6/19	整形外科学分野	総合演習シミュレーションにより様々な問題に取り組み鑑別できるようになる。
9	6/26	整形外科学分野	総合演習シミュレーションにより様々な問題に取り組み鑑別できるようになる。
10	7/3	整形外科学分野	総合演習シミュレーションにより様々な問題に取り組み鑑別できるようになる。
11	7/10	整形外科学分野	柔道整復学と関連の深い部分を理解する。
12	7/17	整形外科学分野	柔道整復学と関連の深い部分を理解する。
13	8/28	整形外科学分野	総合演習シミュレーションにより様々な問題に取り組み鑑別できるようになる。

14	9/4	整形外科学分野	総合演習シミュレーションにより様々な問題に取り組み鑑別できるようになる。
15	9/18	整形外科学分野	総合演習シミュレーションにより様々な問題に取り組み鑑別できるようになる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整外傷学実習 4 Judo Therapy and Traumatology Practice 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼、肘関節後方脱臼、顎関節前方脱臼（口内法・口外法）、肘内障の徒手整復法を学ぶ。 下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂の金属副子や膝関節内側側副靱帯損傷、足関節外側靱帯損傷のテーピングを使用した固定法を学ぶ。
到達目標	骨折、脱臼や軟部組織損傷の発生機序、転位を理解し整復実技が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	12回目後に卒業実技試験を実施し、その項目内にある整復：脱臼項目にて評価する。
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/11	ガイダンス	自己紹介・卒業実技・認定整復実技に向けた注意事項
2	4/18	臨床応用包帯法	基本包帯法と臨床で応用される包帯法の違い。 疾患を意識して適切な包帯を行うことができる。
3	4/25	臨床応用包帯法・ テーピング①	基本テーピングと臨床で応用されるテーピングの違い。 疾患を意識して適切な伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。
4	5/9	臨床応用包帯法・ テーピング②	臨床応用テーピング【足関節】を体得する。 疾患を意識して伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。
5	5/23	卒業実技試験に 向けた脱臼の整復①	肩関節鳥口下脱臼の整復法【コッヘル法・ヒポクラテス法】を体得する。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
6	5/30	卒業実技試験に 向けた脱臼の整復②	肩鎖関節上方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障の整復法を体得する 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
7	6/6	卒業実技試験に 向けた脱臼の整復③	顎関節前方脱臼の整復法【口内法・口外法】を体得する 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
8	6/13	卒業実技試験に 向けた脱臼の固定①	脱臼の固定法【下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂】を体得する 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
9	6/20	卒業実技試験に 向けた脱臼の固定②	膝関節内側側副靱帯損傷の固定法【Xサポートテープ固定】を体得する 患者を意識して非伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。
10	7/4	卒業実技試験に 向けた脱臼の固定③	足関節外側靱帯損傷の固定法【バスケットウィーブテープ・フィギアエイト・ ヒールロックテープ】を体得する 患者を意識して非伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。
11	7/11	卒業実技試験に 向けた実技の復習①	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。
12	7/18	卒業実技試験に 向けた実技の復習②	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。
13	8/29	認定実技審査に 向けた脱臼の整復①	肩関節鳥口下脱臼の整復法【コッヘル法・ヒポクラテス法】、肩鎖関節上方脱臼の整復法を体得 する。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。

14	9/5	認定実技審査に 向けた脱臼の整復②	肘関節後方脱臼、肘内障の顎関節前方脱臼の整復法【口内法・口外法】を体得する 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
15	9/19	認定実技審査に 向けた固定法①	骨折、腱断裂の固定法【下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂】を体得する 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整外傷学実習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	上肢や下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し疾病を鑑別することができる。 柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	ガイダンス・ 肩の軟部組織損傷	肩の鑑別疾患(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、五十肩)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
2	膝の軟部組織損傷	膝の鑑別疾患(内側半月板損傷、内側側副靱帯損傷、前十字靱帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
3	足の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(前距腓靱帯損傷、二分靱帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
4	まとめ	肩・膝・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
5	肘の軟部組織損傷	肘の鑑別疾患(野球肘・上腕骨外側上顆炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
6	手関節の軟部組織損傷	手関節の鑑別疾患(三角線維軟骨複合体損傷、キーンベック病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
7	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(ドケルバン病、ロッキングフィンガー)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
8	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(スワンネック変形、ボタン穴変形)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
9	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(ペルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
10	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(大腿骨頭壊死・股関節拘縮)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
11	下腿の軟部組織損傷	下腿の鑑別疾患(コンパートメント症候群、アキレス腱断裂)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	
12	足部の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(シンスプリント・有痛性三角骨障害、有痛性外脛骨障害)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる	

13		足部の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(第一ケーラー病、フライバーグ病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
14		まとめ	股・下腿・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
15		定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整外傷学実習 6 Judo Therapy and Traumatology Practice 6			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3. 4

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年～2018年 付属整骨院に所属 柔道整復師として従事
------	-------	-------	------------------------------------

学習内容	柔道整復師の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対しての臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	実習を通して骨の各部位の名称、特徴、筋の起始・停止・支配神経・作用、それらにおける損傷、傷害について説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	配布したプリントに筋名、起始、停止、支配神経、作用を記載する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『運動学』（医歯薬）、プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨学復習	骨の構造、関節の構造
2		骨、筋、損傷 1	脊柱、胸部、頭蓋骨の各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
3		骨、筋、損傷 2	頭蓋骨、顎関節の運動（骨、筋など）、上肢（肩甲骨、上腕骨のと筋）の運動の復習。 各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
4		骨、筋、損傷 3	肘関節（橈骨、尺骨）の運動の復習。 各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
5		骨、筋、損傷 4	手関節、手部の運動の復習。 各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
6		骨、筋、損傷 5	手関節の筋、母指球筋、小指球筋を理解し、触診、説明することができるようになる。
7		骨、筋、損傷 6	股関節（骨盤骨、大腿骨）の運動の復習。 各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
8		中間評価	頭蓋骨、上肢の骨、筋、運動について評価する。
9		骨、筋、損傷 7	股関節の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
10		骨、筋、損傷 8	膝関節の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
11		骨、筋、損傷 9	足関節の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
12		骨、筋、損傷 1 0	体幹と脊柱の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
13		骨、筋、損傷 1 1	胸椎と胸郭の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。

14		最終評価	下肢の運動、傷害について評価する。
15		身体運動と力学	てこ、運動の法則、運動の面と軸などを理解し、説明できるようになる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床実習 Clinical Training			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	45	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る 東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	附属整骨院にて臨床実習を行う。
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	患者の有無によりシミュレーションを行う。

成績評価	各実習時間内の評価
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	付属整骨院実習	整骨院の物理療法の体験実技・腰部治療	
2	付属整骨院実習	整骨院の物理療法の体験実技・腰部治療	
3	付属整骨院実習	牽引療法体験実習・頸部治療	
4	付属整骨院実習	牽引療法体験実習・頸部治療	
5	付属整骨院実習	保険証・カルテ記載 1	
6	付属整骨院実習	保険証・カルテ記載 2	
7	付属整骨院実習	医療面接の実際 1	
8	付属整骨院実習	医療面接の実際 2	
9	付属整骨院実習	医療面接の実際 3	
10	付属整骨院実習	医療面接の実際 4	
11	付属整骨院実習	徒手検査法 1	
12	付属整骨院実習	徒手検査法 2	

13	付属整骨院実習	手技療法の実際（軽擦法・揉捏法）
14	付属整骨院実習	手技療法の実際（叩打法・圧迫法）
15	付属整骨院実習	治療体操（腰痛体操・コッドマン体操・バージャ体操）
16	付属整骨院実習	骨折患者の診察、治療シミュレーション
17	付属整骨院実習	骨折患者の診察、治療シミュレーション
18	付属整骨院実習	骨折患者の診察、治療シミュレーション
19	付属整骨院実習	脱臼患者の診察、治療シミュレーション
20	付属整骨院実習	脱臼患者の診察、治療シミュレーション
21	付属整骨院実習	脱臼患者の診察、治療シミュレーション
22	付属整骨院実習	捻挫患者の診察、治療シミュレーション
23	付属整骨院実習	捻挫患者の診察、治療シミュレーション

科目名 【英】	柔整医学演習 1 Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/10	国家試験内容の理解	国家試験の問題数や出題基準また変更となる部分を理解し今後の勉強方法に活かす。 また授業内容の進めかた、勉強の考え方についてレクチャー
2	4/24	消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する。
3	5/8	消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する。
4	5/15	消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
5	5/22	消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する。
6	5/29	消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
7	6/12	肝臓胆嚢膵臓	消化に関わる実質性臓器の働きについて理解する。
8	6/19	肝臓の解剖生理	肝臓の詳細な構造、働きについて全身での役割について理解する。
9	6/26	胆嚢膵臓	胆嚢膵臓の構造、働きを区別できるようにする。肝胆膵の解剖生理理解度を小テストで計る
10	7/3	消化器疾患	消化器疾患を理解するため解剖生理を簡単に振り返り疾患の大枠を捉える。
11	7/10	消化器疾患	口腔から小腸までの疾患について解剖生理を理解しつつ覚える。
12	7/17	消化器疾患	小腸から肛門にかけての疾患および自己免疫疾患についても理解する。消化管疾患の小テスト
13	8/28	消化器疾患	肝臓胆嚢膵臓の主な疾患について理解する。肝胆膵の小テストを実施する

14	9/4	試験対策	前期試験末の試験について再復習
15	9/18	試験対策	前期末試験の解答解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 2 Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3 行岡専門学校・付属接骨院に所属
------	------	-------	-----------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	4/9	血液系 1	血液の生理について復習し、赤血球の特徴を理解し説明することが出来るようになる。
2	4/23	血液系 2	血液の生理について復習し、血漿タンパク質の特徴を理解し説明することが出来るようになる。
3	5/7	血液系 3	血液の生理について復習し、血液凝固の仕組みを理解し説明することが出来るようになる。
4	5/14	血液系 4	血液関連疾患について復習し、貧血について理解し説明することが出来るようになる。
5	5/21	血液系 5	血液関連疾患について復習し、白血病について理解し説明することが出来るようになる。
6	5/28	循環器系 1	循環器系の構造について復習し、血管系の特徴を理解し説明することが出来るようになる。
7	6/4	循環器系 2	循環器系の構造について復習し、心臓の構造を理解し説明することが出来るようになる。
8	6/11	循環器系 3	循環器系の生理について復習し、心臓の整理、血圧調節について理解し説明することが出来るようになる。
9	6/18	循環器系 4	循環器系の疾患について復習し、虚血性心疾患、先天性心疾患について理解し説明することが出来るようになる。
10	7/2	循環器系 5	循環器系の疾患について復習し、末梢循環障害について理解し説明することが出来るようになる。
11	7/9	呼吸器官系 1	呼吸器官系の構造について復習し、鼻腔、喉頭の構造を理解し説明することが出来るようになる。
12	7/16	呼吸器官系 2	呼吸器官系の構造について復習し、気管支、肺の構造を理解し説明することが出来るようになる。
13	8/27	呼吸器官系 3	呼吸器官系の生理について復習し、ガス交換の仕組みを理解し説明することが出来るようになる。

14	9/3	呼吸器官系 4	呼吸器官系関連疾患について復習し、呼吸器感染症について理解し説明することが出来るようになる。
15	9/17	呼吸器官系 5	呼吸器官系関連疾患について復習し、換気障害について理解し説明することが出来るようになる。試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 3 Medical Practice of Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3.4

担当教員	堀口 晃一 山本 勝行	実務者経験	(堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月 (山本) 山本鍼灸整骨院開業 昭和56年8月～現在に至る
------	----------------	-------	---

学習内容	運動学の総復習・国家試験過去問を学ぶ。 固定学として臨床的な固定法を習得する。
到達目標	運動学の国試過去問を理解する。 教科書に載っていない応用的な固定法を習得する。

準備学習 時間外学習	特になし
使用教材	教科書「運動学」 医歯薬出版 第3版
留意点 備 考	実技はＫＣ・座学は長白衣で臨むこと

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動学	運動の表し方・身体運動と力学 運動の面と軸・てこの種類・運動法則の理解
2	4/23	固定学 1	足関節の固定包帯 足関節のテーピング・固定の習得
3		運動学	運動器の構造と機能 骨・関節・筋肉の収縮様態の理解
4	5/14	固定学 2	指関節固定包帯 指関節のテーピング・固定の習得
5		運動学	神経の構造と機能・運動感覚 運動感覚と運動制御の理解
6	5/28	固定学 3	中手骨骨折の固定法 中手骨・クラーメル副子固定の習得
7		運動学	姿勢 重心・立位姿勢・立位姿勢の制御の理解
8	6/11	固定学 4	指骨骨折の固定 指骨・クラーメル副子固定の習得
9		運動学	歩行Ⅰ 歩行周期・効率的な歩行を決める要因の理解
10	7/2	固定学 5	Wテープによる足関節の固定法 Wテープの理解・習得
11		運動学	歩行Ⅱ 歩行時の筋活動・原因別の異常歩行の理解
12	7/16	固定学 6	YKテープ療法 パステープの理論を理解する。
13		運動学	運動発達・運動学習 原始反射・運動発達の理

14	8/27	固定学 7	Y Kテープ療法Ⅱ パステープ各論・身体各論への応用
15		運動学	前期試験・国家試験問題の解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	一般臨床医学（総論）を各論と併せながら、また解剖生理学を交えながら理解し、国家試験レベルまで到達させる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『一般臨床医学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		打診	鼓音と濁音の違いを理解し、各疾患で説明ができる。
2		触診 1	触診法、筋トーンス亢進（痙直・硬直）の違いを知り説明ができる。
3		触診 2	骨・関節・胸腹部・リンパ節の触診を理解し、腹部分画での主要臓器の位置が説明できる。
4		生命徴候 1	体温、血圧について、健常者と傷病者の数値の違いを知り説明ができる。
5		生命徴候 2	脈拍、呼吸について、健常者と傷病者の数値の違いを知り説明ができる。
6		感覚検査	感覚の種類（分類）を覚え、説明することができる。
7		反射検査 1	反射の種類（分類）、病的反射、クロウヌス、錐体路障害を知り説明ができる。
8		反射検査 2	反射検査実技を通して反射の反応を実感し、また錐体路障害と錐体外路障害の症状の違いを説明ができる。
9		聴診	閉塞性・拘束性換気障害の違いを理解することができる。
10	1	代表的な臨床症状	出血傾向の病態生理を理解し説明できる。
11	2	代表的な臨床症状	発熱、リンパ節腫脹の病態生理を理解し説明できる。
12	3	代表的な臨床症状	意識障害、アノゼ、関節痛の病態生理を理解し説明できる。
13	4	代表的な臨床症状	浮腫、肥満、やせの病態生理を理解し説明できる。

14		視診	各疾患名および所見を組合せて覚える。
15		試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3. 4

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2009年4月～2013年3月 附属整骨院勤務 2013月6年～現在 整骨院開業
------	-------	-------	---

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	柔道整復に関して、総合的な実力を向上させることを目的とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書「外科学」（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		導入	授業の進め方 記憶法
2		ドライバー外傷	多発外傷、機械的、日機械的損傷などについて理解し説明することができる。
3		皮膚損傷	潰瘍、びらん、瘻孔、壊死、ドライバー損傷などについて理解し説明することができる。
4		熱傷	合併症、顔面損傷、熱傷深度などについて理解し説明することができる。
5		外科感染症 1	破傷風、髄膜炎などについて理解し説明することができる。
6		外科感染症 2	せつ、よう、面疔、丹毒、蜂巣炎などについて理解し説明することができる。
7		腫瘍 1	扁平上皮癌、腺癌、未分化癌などについて理解し説明することができる。
8		腫瘍 2	転子の仕方、血行性、リンパ性などについて理解し説明することができる。
9			
10			
11			
12			
13			

14			
15			
16			
			提出期日：初回授業日

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	10/10	法の体系	法の体系について説明することができる。
2	10/17	患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3	10/24	医療過誤とリスク マネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4	10/31	柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5	11/7	柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6	11/14	柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7	11/21	柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8	11/28	合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9	12/5	業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10	12/12	施術所	施術所について説明することができる。
11	12/19	広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12	1/9	医療法	医療法について説明することができる。
13	1/16	指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。

14	1/30	社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15	2/6	試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	臨床治療学 Clinical Treatment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月現在 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。				
------	-------	-------	--	--	--	--	--

学習内容	肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼、肘関節後方脱臼、顎関節前方脱臼（口内法・口外法）、肘内障の徒手整復法を学ぶ。 下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂の金属副子や膝関節内側側副靱帯損傷、足関節外側靱帯損傷のテーピングを使用した固定法を学ぶ。						
到達目標	骨折、脱臼や軟部組織損傷の発生機序、転位を理解し整復実技が出来るようになる。						

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。						
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント						
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。						

成績評価	14回目後に実技試験（包帯法：母指MP、手関節、足関節）を実施し評価する。						
------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	卒業実技試験に向けた固定法②	膝関節内側側副靱帯損傷の固定法【Xサポートテープ固定】を体得する 患者を意識して非伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。	
2	卒業実技試験に向けた固定法③	足関節外側靱帯損傷の固定法【バスケットウィーブテープ・フィギアエイト・ヒールロックテープ】を体得する 患者を意識して非伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。	
3	認定実技審査に向けた実技の復習①	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。	
4	認定実技審査に向けた実技の復習②	骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法、固定法【前期の教授内容】 患者を意識した整復法や固定法を行うことができる。	
5	臨床応用包帯法・テーピング①	臨床応用テーピング【膝関節】を体得する。 疾患を意識して適切な伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。	
6	臨床応用包帯法・テーピング②	臨床応用テーピング【手関節・肘関節】を体得する。 疾患を意識して適切な伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。	
7	臨床応用包帯法・テーピング③	臨床応用テーピング【肩関節】を体得する。 疾患を意識して適切な伸縮性テープによる適切な固定を行うことができる。	
8	単独整復法	助手がいなくとも術者が一人で行える脱臼の整復法を体得する。 肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼の整復を行うことができる。	
9	診察法	打鍵器を使用した診察法を体得する。 腰痛椎間板ヘルニアの症状から障害神経根レベルに合わせた深部腱反射を行うことができる。	
10	画像診断	単純レントゲン画像の見方を学ぶ。 症例から傷病名を判断することができる。	
11	ギプス固定① 足関節	プラスチックギプスの注意事項 キャストライトを使用して足関節の固定をすることができる。	
12	ギプス固定② 足関節	プラスチックギプスの注意事項 キャストライトを使用して足関節の固定をすることができる。	
13	ギプス固定③ 手関節	プラスチックギプスの注意事項 キャストライトを使用して手関節の固定をすることができる。	

14	ギプス固定④ 足関節	プラスチックギプスの注意事項 キャストライトを使用して手関節の固定をすることができる。
15	まとめ	柔整外傷学実習 4、臨牀治療学で学んだ整復法や固定法、診察法の振り返りを行う。 今後の柔道整復師のあり方を考える。
16		

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 6 Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備 考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	10/2	内分泌解剖生理 1	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
2	1/9	内分泌解剖生理 2	下垂体のホルモンを理解する。
3	10/16	内分泌解剖生理 3	頸部のホルモンを理解する。
4	10/23	内分泌解剖生理 4	胸腹部のホルモンを理解する。
5	10/30	内分泌解剖生理 5	生殖器ホルモンを理解する。内分泌解剖生理の小テスト
6	11/13	内分泌疾患 1	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
7	11/20	内分泌疾患 2	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
8	11/27	内分泌疾患 3	腹部以降の内分泌疾患を理解する。内分泌疾患小テスト
9	12/4	泌尿器解剖生理 1	泌尿器の構造仕組みを理解する。
10	12/11	泌尿器解剖生理 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
11	12/18	泌尿器解剖生理 3	膨満嚢から尿道まで男女別に区別し理解する。
12	1/8	泌尿器疾患 1	泌尿器疾患における特徴を知り理解する。泌尿器解剖生理の小テスト
13	1/15	泌尿器疾患 2	腎臓実質における疾患を理解する。

14	1/29	試験対策	後期試験末の試験について再復習
15	2/5	試験対策	後期末試験の解答解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 7 Medical Practice of Judo Therapy 7			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3 学年	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3 行岡専門学校・付属接骨院に所属
------	------	-------	-----------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		神経系 1	中枢神経系の解剖、生理について理解し説明することが出来るようになる。
2		神経系 2	中枢神経系の解剖、生理について理解し説明することが出来るようになる。
3		神経系 3	中枢神経系の解剖、生理について理解し説明することが出来るようになる。
4		神経系 4	中枢神経系疾患について理解し説明することが出来るようになる。
5		神経系 5	末梢神経系疾患について理解し説明することが出来るようになる。
6		筋の生理 1	筋の生理について理解し説明することが出来るようになる。
7		筋の生理 2	筋の生理について理解し説明することが出来るようになる。
8		筋の生理 3	筋疾患について理解し説明することが出来るようになる。
9		筋の生理 4	筋疾患について理解し説明することが出来るようになる。
10		感覚器 1	感覚器の解剖、生理について理解し説明することが出来るようになる。
11		感覚器 2	感覚器の解剖、生理について理解し説明することが出来るようになる。
12		感覚器 3	感覚器の解剖、生理について理解し説明することが出来るようになる。
13		感覚器 4	感覚器の疾患について理解し説明することが出来るようになる。

14		感覚器 5	感覚器の疾患について理解し説明することが出来るようになる。
15		感覚器 6	演習問題
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 8 Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2009年4月～2013年3月 附属整骨院勤務 2013年6月～現在 整骨院開業
------	-------	-------	---

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『病理学概論』（医歯薬出版）
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		病理学	導入 病理とは
2		萎縮	生理的、動脈硬化症、圧迫性、神経性、内分泌性萎縮について理解し、説明することが出来るようになる。
3		変性	蛋白質変性、石灰化、糖原変性、脂肪変性について理解し、説明することが出来るようになる。
4		代謝異常	間接・直接ビリルビン上昇疾患について理解し、説明することが出来るようになる。
5		循環障害	うっ血、充血、主臓器のうっ血について理解し、説明することが出来るようになる。
6		循環障害	脳梗塞、凝固性壊死、白色赤色梗塞について理解し、説明することが出来るようになる。
7		浮腫	血管透過性亢進、血管圧上昇、膠質浸透圧、リンパ閉塞について理解し、説明することが出来るようになる。
8		進行性病変	肥大、過形成、再生について理解し、説明することが出来るようになる。
9		炎症、異物の排除	器質化、炎症細胞について理解し、説明することが出来るようになる。
10		炎症	分類、漿液性、特異性、化膿性、出血性炎について理解し、説明することが出来るようになる。
11		炎症	サイトカイン、液性免疫、細胞性免疫について理解し、説明することが出来るようになる。
12		自己免疫疾患	SLE、強皮症、シェーグレン、RA、結節性多発性動脈炎、橋本病について理解し、説明することが出来るようになる。
13		アレルギー型 腫瘍	アレルギーの分類、腫瘍の種類について理解し、説明することが出来るようになる。

14		先天性異常	伴性劣性遺伝、常染色体優性・劣性遺伝について理解し、説明することが出来るようになる。
15		病因	内因、外因について理解し、説明することが出来るようになる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 9 Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、コーレス骨折の徒手整復法を学ぶ。 第5中手骨頸部骨折、第2指PIP関節背側脱臼、足関節外側靱帯損傷の金属副子や厚紙副子を使用した固定法を学ぶ。 国家試験の症例問題の解き方を学ぶ。
到達目標	骨折、脱臼の発生機序、転位を理解し整復実技力を身につける。臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 骨折や脱臼、軟部組織損傷の症例問題を読み解くことができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	学期末に試験を実施し評価する。
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	認定実技審査に 向けた骨折の整復④	骨折の徒手整復法【コーレス骨折の屈曲整復法】 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
2	認定実技審査に 向けた骨折の固定	骨折の固定法【第5中手骨頸部骨折】 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
3	認定実技審査に 向けた脱臼の固定	脱臼の固定法【第2指PIP関節背側脱臼】 患者を意識して金属副子による適切な固定を行うことができる。
4	認定実技審査に 向けた靱帯損傷の固定	軟部組織損傷の固定法【足関節外側靱帯損傷】 患者を意識して厚紙副子による適切な固定を行うことができる。
5	国家試験対策①	上肢の骨折を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
6	国家試験対策②	上肢の骨折を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
7	国家試験対策③	上肢の骨折を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
8	国家試験対策④	下肢の骨折を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
9	国家試験対策⑤	下肢の骨折を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
10	国家試験対策⑥	上肢の脱臼を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
11	国家試験対策⑦	下肢の脱臼を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
12	国家試験対策⑧	上肢の軟部組織損傷を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
13	国家試験対策⑨	上肢の軟部組織損傷を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。

14		国家試験対策⑩	下肢の軟部組織損傷を理解する。 国家試験問題の症例問題を読み解くことができる。
15		国家試験対策⑪	後期末試験の解答と解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 10 Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年～2018年 付属整骨院に所属 柔道整復師として従事
------	-------	-------	------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	演習問題を通して、様々な問題に対応できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	230～250問のフル模試にて各回数に設定してある点数に達する。
------	----------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
2		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
3		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
4		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
5		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
6		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
7		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
8		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
9		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
10		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
11		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
12		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科学、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
13		演習問題	解剖学、生理学、運動学、衛生学、病理学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。

14		演習問題	関係法規、一般臨床医学、リハビリテーション医学、外科学、整形外科、柔道整復学について演習問題を解き、誤答に対して説明できるようになる。
15		演習問題	総復習
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 1 1 Medical Practice of Judo Therapy 11			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1. 2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	国家試験に必要な知識を取得し、また卒後に役立つ知識を幅広く取得する。
到達目標	国家試験で80%の問題を解くことができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第3版（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	授業終了後に講義内容の問題を網羅しておく。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		体温とその調節	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
2		泌尿器系（解剖）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
3		尿の生成と排泄	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
4		尿の生成と排泄	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
5		生殖器（解剖学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
6		生殖器（解剖学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
7		生殖器（生理学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
8		生殖器（生理学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
9		解剖生理 小テスト	体温・泌尿器・生殖器の理解度を確認。 国家試験に準じたオリジナル問題で80%を取ることができる。
10		消化器系（解剖）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
11		消化と吸収	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
12		消化と吸収	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
13		栄養と代謝	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。

14		感覚器（解剖）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
15		感覚器（生理）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 1 2 Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	1. 2

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『生理学』（南江堂）
留意点 備 考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		総論	細胞について理解し、説明することが出来るようになる。
2		体液、血液	体積成分、組成、赤血球について理解し、説明することが出来るようになる。
3		血液、心臓	血漿蛋白質、凝固、心筋について理解し、説明することが出来るようになる。
4		循環、呼吸	心電図、血圧、酸素運搬について理解し、説明することが出来るようになる。
5		呼吸、消化	二酸化炭素運搬、スパイロメーター、消化管ホルモンについて理解し、説明することが出来るようになる。
6		消化	肝臓、脂肪の吸収について理解し、説明することが出来るようになる。
7		栄養代謝	ビタミン、ＡＴＰ、尿中窒素について理解し、説明することが出来るようになる。
8		体温	放熱、発汗、汗腺、視床下部などについて理解し、説明することが出来るようになる。
9		腎臓	ＲＡＡ、濾過について理解し、説明することが出来るようになる。
10		内分泌	副腎皮質ホルモン、視床下部、下垂体などについて理解し、説明することが出来るようになる。
11		生殖	生殖器の発生、カルシウム、コラーゲンについて理解し、説明することが出来るようになる。
12		生殖	性周期、甲状腺について理解し、説明することが出来るようになる。
13		骨、神経	カルシウム代謝、伝導、伝達、膜電位、自律神経

14		神経、筋	腫脹、筋収縮などについて理解し、説明することが出来るようになる。
15		筋、感覚	筋とＡＴＰ、心筋、感覚器、痛みについて理解し、説明することが出来るようになる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習 1 3 Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつかせ引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末筆記100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整総論 1	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
2		柔整総論 2	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
3		柔整総論 3	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
4		柔整総論 4	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
5		柔整総論 5	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴、癒合日数、治癒経過、予後、影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。
6		柔整総論 6	関節損傷（構造、分類、関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。
7		柔整総論 7	脱臼（分類、症状、合併症、整復障害、予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
8		柔整総論 8	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
9		柔整総論 9	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
10		柔整総論 1 0	治療法（固定法、後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
11		柔整総論 1 1	評価、治療法（整復法、初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
12		柔整各論 1	柔整各論 学生の苦手な各論を理解させ、過去問題を解くことができる。
13		柔整各論 2	柔整各論 学生の苦手な各論を理解させ、過去問題を解くことができる。

14		柔整各論 3	柔整各論 学生の苦手な各論を理解させ、過去問題を解くことができる。
15		試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習14 Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	柔道整復師において必要なリハビリテーション医学の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	P C / 配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	後期末試験（筆記 100%）で評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		リハ医学の概念 1	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。
2		リハ医学の概念 2	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。
3		基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。
4		評価と診断 1	評価と診断【MMT・筋力増強法】 MMTについて説明できる。
5		評価と診断 2	評価と診断【運動失調】 運動調節機構の概要について説明できる。
6		評価と診断 3	評価と診断【ADL】 ADLと評価法について説明できる。
7		治療学 1	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。
8		治療学 2	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。
9		リハビリの実際 1	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。
10		リハビリの実際 2	各論【脳卒中②】 急性期と回復期のリハビリテーションについて説明できる。
11		リハビリの実際 3	各論【脊髄損傷】 損傷高位による機能予後を説明できる。
12		リハビリの実際 4	各論【脳性麻痺】 脳性麻痺の3型を説明できる。
13		国家試験対策 1	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。

14		国家試験対策 2	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。
15		まとめ	総復習 国家試験においての重要範囲について説明できる。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習15 Medical Practice of Judo Therapy 15			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3. 4

担当教員	服部 博幸	実務者経験	2000年4月～2013年7月 付属整骨院にて勤務 2014年7月～現在 鍼灸整骨院を開業
------	-------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	柔道整復に関して、総合的な実力を向上させることを目的とする。

準備学習 時間外学習	復習して下さい。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		練習問題	練習問題とそのフィードバック
2		手・手指部の骨折・脱臼1	橈骨遠位端部骨折
3		手・手指部の骨折・脱臼2	手根骨骨折、手関節部脱臼
4		手・手指部の骨折・脱臼3	手指の骨折、脱臼
5		骨盤・下肢の骨折・脱臼1	骨盤骨骨折
6		骨盤・下肢の骨折・脱臼2	股関節脱臼、膝関節脱臼
7		骨盤・下肢の骨折・脱臼3	大腿骨、下腿骨骨折
8		骨盤・下肢の骨折・脱臼4	足部の骨折、脱臼
9		上肢の神経損傷	絞扼神経障害
10		上肢の骨折1	前腕骨、上腕骨骨折
11		上肢の脱臼1	肘関節、肩関節脱臼
12		上肢の骨折2	鎖骨、肩甲骨骨折
13		上肢の脱臼2	肩鎖関節脱臼など

14		総論	骨折の分類、合併症など
15		試験解説	前期試験解説
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習16 Medical Practice of Judo Therapy 16			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	国家試験対策（整形外科学、衛生学）を学ぶ。
到達目標	整形外科・衛生学の一般問題を解けるようになる。

準備学習 時間外学習	リハビリテーション医学の教科書
使用教材	整形外科学、衛生学の教科書
留意点 備 考	毎回授業資料を配り、国家試験問題を解いていきます。

成績評価	100% 定期試験問題
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		整形外科学 1	感染性疾患（急性化膿性骨髄炎・骨関節結核）について説明できる。
2		整形外科学 2	骨腫瘍（悪性骨腫瘍。良性骨腫瘍・軟部腫瘍）について説明できる。
3		整形外科学 3	非感染性軟部・関節疾患（OA・RA・痛風・骨粗鬆症）について説明できる。
4		整形外科学 4	全身性の骨・軟部疾患（先天性骨系統疾患・くる病・巨人症）について説明できる。
5		整形外科学 5	骨端症（ペルテス病・オズグット病・ケーラー病）について説明できる。
6		整形外科学 6	四肢循環障害（TAO・ASO）、上肢の神経麻痺・絞扼性神経障害について説明できる。
7		整形外科学 7	下肢の神経麻痺、全身性神経・筋疾患について説明できる。
8		整形外科学 8	体幹の疾患（頸部・胸部・腰部）が説明できる。
9		衛生学 1	健康の概念を説明できる。人口統計、健康水準、健康指標について理解する。
10		衛生学 2	疾病予防と健康管理を説明できる。一次予防・二次予防・三次予防について理解する。
11		衛生学 3	感染症予防について説明できる。細菌感染症、予防接種について理解する。
12		衛生学 4	消毒について説明できる。手指消毒、院内感染対策について理解する。
13		衛生学 5	環境衛生について説明できる。物理的環境要因、公害について理解する。

14		衛生学 6	生活環境・食品衛生活動について説明できる。上水、下水、水質汚濁について理解する。
15		衛生学 7	母子保健について説明できる。母子保健の指標について理解する。
16			

提出期日：初回授業日

科目名 【英】	柔整医学演習17 Medical Practice of Judo Therapy 17			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	金曜日	時 限	3.4

担当教員	専任教員	実務者経験	
------	------	-------	--

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	苦手とする分野を克服し国家試験で分からないことがないようにする。

準備学習 時間外学習	各科目の予習復習をいていること
使用教材	各教科書（指定されたもの）
留意点 備 考	

成績評価	定期テスト100%とする
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	オリエンテーショ ン		苦手とする科目の克服法または今後のスケジュールについて各自が理解し取り組むようにする
2	病理学 1		腫瘍の特徴を学び理解する
3	病理学 2		よく出題される内容を把握し理解する
4	運動学 1		小児の運動発達について学び理解する
5	運動学 2		歩行周期について学び各用語を理解する
6	運動学 3		異常を伴う歩行を学び理解する
7	解剖学 1		末梢神経について上下肢学び理解する
8	解剖学 2		末梢神経障害について学び理解する
9			
10			
11			
12			
13			

14			
15			
16			
			提出期日：初回授業日